

第4回 摂津市まちづくり市民会議 議事概要

日時：6月16日（火）19:00～21:15

場所：摂津市立男女共同参画センター 大会議室、第1会議室

出席者：くらし部会11名（欠席0名）、まち部会10名（欠席1名）、事務局7名、市職員2名（オブザーバー）、コンサルタント4名

1. 前回のふりかえりと本日のプログラムの説明

- ・前回の議事概要につき、各自確認のうえ、修正事項があれば事務局まで連絡をすることとなりました。
- ・また、味舌小学校思い出の玉手箱づくり実行委員会を代表して榎谷さんから、記念誌「味舌小学校 思い出の玉手箱」と、創立130周年記念誌「百三十年のあゆみ」のご紹介と資料提供がありました。

2. 部会活動の進め方

- ・進行役から部会活動の進め方について説明があり、3回の部会活動を通じて、部会としての「提案シート」のとりまとめを行うこととなりました。
- ・その後、2つの部会（くらし部会、まち部会）に分かれて意見交換を行いました。

《第1回くらし部会》

1. 部会運営について

○部会のリーダー、サブリーダーの選任について

- ・部会のリーダー、サブリーダーについて、4名の方（黒田さん、宮田さん、古谷さん、服部さん）から就任可能との意思表示をいただきました。議論を進め、それぞれのメンバーについてお互いによく理解できた段階で選任することになりました。

○部会での議論の進め方について

- ・提案シートについて、一枚ずつ議論するのではなく、ある程度のまとまり毎に議論することとなり、次の5つのまとまりが見出されました。

- | |
|--------------|
| ①高齢者福祉・障害者福祉 |
| ②健康・医療 |
| ③保育・子育て |
| ④学校教育 |
| ⑤摂津の歴史・文化 |

- ・第1回については、グループに分けずに全体で検討を進めることとなり、「提案シート」を作成された方に、提案のポイントを説明していただくことになりました。

2. 「提案シート」の検討

- ・次のような提案や意見交換がありました。

◇高齢者は弱者？それとも強者？

- ・統計をみると、高齢者は一人あたりの資産が多く、経済的には強者であるといえる。また、一人暮らしの高齢者が増えていて生活が大変だと言うが、核家族化を選択して来たのは今の60代前後の世代であり、生活が苦しくなったからサポートが必要だというのは、若者世代からするとわがままなようにも感じられる。
- ・全体としては、高齢者の貯蓄は多いかもしれないが、それは一部の人が多額の貯蓄を持つためであろう。平均値だけで物事をみると、財産がなく、本当に苦しい人の実体が軽視されることになりかねない。それぞれの人の状況を把握したうえで対策を考えないといけない。一方、財産のある人には、自立していただくことが必要である。
- ・今後は、世代間で認識の違いがあることをよく理解したうえで、議論を進めていくことが必要である。

◇介護や地域での支えあいが重要！

- ・在宅介護の負担が大きい。地域包括支援センターを核とした連携強化（医師とヘルパーの連携など）が求められる。在宅医療との関係も重要である。
- ・一人暮らし高齢者や高齢夫婦のみの世帯が増えてきており、ご近所づきあいを深め、自治会活動を活発に行うなど、地域での支えあいが重要である。介護業務に従事した時のポイントを要介護時に使用できる制度を導入している事例もある。
- ・特別養護老人ホームへの入所待ちは200人を超えていると聞いている。施設整備のあり方も考える必要がある。
- ・長野県の安曇野市で介護に関わる優れた事例があるとの紹介がありました。

◇福祉や医療についての情報がわかりにくい！

- ・様々な福祉サービスが提供されているがご存知でない方が多いのではないかな。福祉施設についても知られていない。
- ・リバースモーゲージ（持ち家を担保として融資を受け、死後不動産を売却して返済する仕組み）などの商品が供給されているが利用が少ない。パンフレットもわかりにくい。
- ・休日応急診療所は、以前は内科もあったが、今は小児科だけとなっている。どのような休日診療があるのか知られていないのではないかな。
- ・往診についての情報がわかりにくい。
- ・国民健康保険では、手続きをすれば短期の保険証などを出してもらうことができる場合もあるが、ご存知でない方もおられる。保険証がなくて困っている人をなくしたい。

◇障害者やその家族が安心してサービスが受けられるように！

- ・障害者自立支援法が導入され、サービスの利用にあたっての自己負担が増えた。
- ・保健所の支所が廃止され、障害者の家族などは大変不便を感じている。また、相談やサポートなども手薄になったように感じている。そのため、相談できたり、必要なケアが受けられるなどの機能を備えた「障害者センター」の設置が望まれる。（立派な施設は必要ない）
- ・保健所支所の再設置などを大阪府に要望できるとよいのだが、再設置が難しい状況もあることから、そのなかで障害者やその家族が安心でいる環境を考える必要がある。
- ・福祉のあり方について、市民と行政や事業者などが話し合う「対話の場」があると良い。

◇安心して医療を受けたい！

- ・医療機関が市内に偏在しており、利用しにくい。
- ・診療報酬の引き下げなどもあり、公立・民間を問わず、病院経営は苦しいようである。また、公立病院では医師の確保も困難なようである。市立病院を設立しても採算をとりながら運営を続けることは難しいのではないか。
- ・市立病院の設立を要望し続けることも大事ではないか。要望し続けることで、例えば総合医療相談センターのような代替機能が整備されるのではないか。
- ・近隣には、医療機関の充実した吹田市などがある。ネットワークを組んで足りない部分を補うことができればと思う。かかりつけ医から、必要に応じて高度な医療につないでもらえることが重要である。
- ・保健センターが核となって、他都市の医療機関とのネットワークをつくれないうるか。

◇その他

- ・高齢者が働ける場所を増やしたい。
- ・市内各地にAEDの設置を。
- ・自転車の運転マナーを向上したい。
- ・市内の循環バスのルートに駅が含まれておらず、使い勝手が悪い。
- ・歩道にはみ出して陳列をする店があるなど通行に支障。マナーの問題。
- ・人口の増減の目標をどのように置くのかを考えることが必要。

3. 第2回部会に向けて

- ・5つのうち、「①高齢者福祉・障害者」と「②健康・医療」について、発表とわずかではあるものの意見交換を行ったので、その内容をもとに、第2回部会までに、分担して部会としての「提案シート」のたたき台を作成することとなりました。

提案のテーマ	部会まとめ（たたき台）の作成担当
◇在宅介護や地域での支えあいの充実を	前川さん、尾崎さん、黒田さん
◇福祉や医療についてのわかりやすい情報提供を	範国さん、宮本さん
◇障害者やその家族が安心してサービスが受けられるように	服部さん
◇安心して医療を受けられるように	宮田さん、木村さん

- ・また、交通マナー、AEDの設置など、上記以外についても、部会からの提案として合意できそうな提案があるため、引き続き検討することとなりました。
- ・次回以降の部会では、「③保育・子育て」「④学校教育」「⑤摂津の歴史・文化」の発表と意見交換、分担して作成する「部会としてのまとめ」（たたき台）の検討を行います。

《第1回まち部会》

1. 部会運営について

○部会のリーダー、サブリーダーの選任について

- ・部会のリーダーについては榎谷さんから就任可能との意思表示をいただきました。サブリーダーについては、第2回以降の部会において選任することとなりました。

○部会での議論の進め方について

- ・提案シートについて議論をするのではなく、まず将来都市像やテーマを決めてから各論を議論する必要があるとの意見が出され、まち部会の議論の進め方について次の5つが話し合われました。

- | |
|---|
| ①総合計画の将来都市像の再検討
②将来都市像に基づく大テーマの決定
③大テーマに基づく課題の集約
④行政と市民の声をどう一致させていくのか
⑤摂津市の魅力とは何か |
|---|

2. 議論の進め方と「摂津市の魅力」の検討

- ・次のような提案や意見交換がありました。

◇摂津市の将来都市像は…？

- ・これまで多くの議論が行われてきたが、各論（＝手段）が多く、総論が少ないので将来像が見えてこない。もっと具体的な将来像の検討を議論する必要があるのではないか。
- ・枝葉から考えるとまとまらない。まず、具体的な目標が必要だから、摂津の特徴を活かしたフレーズ（テーマ）を決定させたい。

◇大テーマと課題の集約

- ・大テーマを決めてから議論を進めたほうがいいのか。細かいのは分かるが、大きなテーマが分からない。
- ・まだまだまとめるのには早すぎる。課題を絞る必要がある。
- ・まち部会だけ、提案シートの提案にとらわれず、別にテーマを設けて議論すればよいのではないか。

◇行政と市民の意見は一致しているの??

- ・行政の意見と市民の意見を総合計画の中でどう合わせていくのか。市民会議で意見を言うだけでなく、行政の意見を聞きたい。
- ・行政に踏み込んだ市民の声を聞いてもらうために、行政と市民の意見交換が必要なのではないか。
→この件については、事務局の宿題となりました。

◇ 摂津市の魅力をどう作っていくか！

1. 産業

- ・企業の方々の意見を聞きたい。
- ・摂津市の法人市民税収入は近年、減収気味ではあるが、市民1人あたりの税額は大阪市について2位か3位と高い。
- ・市税収入のうち1割強が法人市民税である。
- ・摂津は企業誘致を目指すのか否か。
→大企業を誘致できる敷地がない。誘致ができないので、環境面を整えるなど流失しないよう努めなければならない。

2. 住環境

- ・企業と住民の共生は環境面などバッティングすることばかりじゃない。「持続可能なまち」を一緒につくっていく必要がある。
- ・企業が活動しやすい環境と、住民が住みよい環境の両立。

- ・客観的な住みやすさとは、(1) 広い道路、(2) 買い物、(3) 住みやすい環境であると思う。
- ・収入と収支のバランスを考えなければ、千里ニュータウンのようになってしまう。
- ・現実を踏まえた 10 年後の摂津を考えるべきだ。
- ・地域の交流とはあまり関係がない若い人（単身者、単身赴任者）が多い。つまり、子育て世代（=子ども）が少ない。

3. 交通ネットワーク

- ・鉄道、交通網を活かして市内を活性化させる必要がある。
- ・バス路線が拡充され市内にネットワークがあれば活性化される地域があると思う。
- ・摂津市内には「交通格差」が残っている。
- ・市内の離れた場所に行くよりも大阪市内に出るほうが早い地域もあり、小さな市内の中で格差がある。
- ・循環バス…どうすれば利用が増えるのか。
- ・摂津はもともと田園都市であり、開発が進められて都市化された。河川や田園などの自然と都市を結ぶため公共交通、道路、自転車、駐車場などの交通ネットワークをもっと充実させていく必要がある。

4. 摂津市の魅力をどうつくっていくか

- ・都市基盤、産業、住環境…摂津市の魅力は何か。魅力をどうつくっていくのか。
- ・歴史、文化など摂津市の魅力はどうあってほしいのか。

3. 第 2 回部会に向けて

- ・第 1 回目は主に、議論の進め方について検討を行ったが、部会の検討課題である都市基盤、産業、住環境について第 2 回までに次の 2 つを各自検討することになりました。

次回までの宿題

- (1) 摂津の魅力は何なのか？
- (2) 交通ネットワークをどうすべきか？

- ・まず、次回までの宿題についてみなさんで議論し、“魅力あるまち”についての共通意識の確立を図ります。
- ・次に、テーマ 4 「快適で住みやすいまち (例)」について都市基盤、産業、環境の観点から議論を深め、「部会としてのまとめ」(たたき台) の検討を行います。